

[1] 寒冷沿岸施設における水産生物の保護育成機能強化に関する研究

【達成目標と研究内容】

沿岸構造物周辺における水産生物の利用状況とその生息環境特性を把握し、沿岸構造物と水産生物の関係（環境共生機能）を明らかにすることにより、沿岸構造物周辺における水産生物の保護・育成機能の解明および機能評価手法の確立それらの機能強化のための整備技術の開発を目指すものである。

➤ 達成目標①：寒冷海域の水産生物の沿岸構造物周辺における行動特性の解明

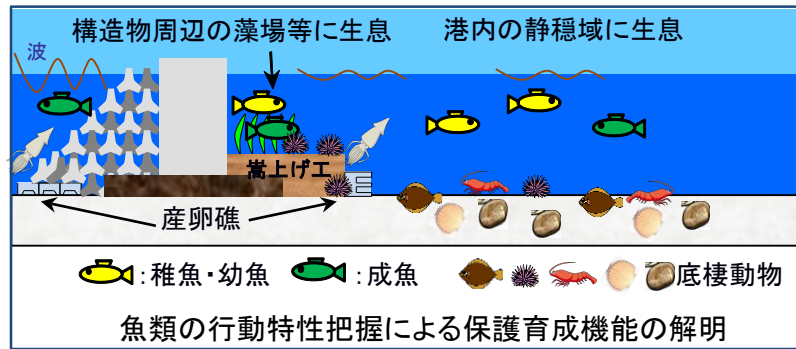
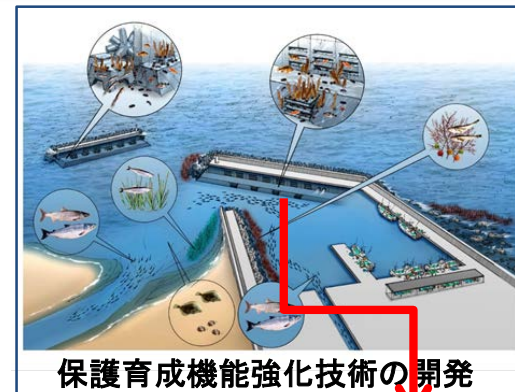
- ・現地調査により沿岸構造物周辺における水産生物の生息・行動環境、波浪・流況などの物理環境、餌料および被食環境、水質、底質、構造物の特性（構造・基質等）を解明する。

➤ 達成目標②：沿岸構造物周辺における水産生物の保護・育成機能の評価技術の開発

- ・写真およびビデオによる水産生物の行動過程検討手法の構築
- ・GISを用いた生息分布や環境条件のマッピング解析手法の構築
- ・河口沿岸域の基礎生産構造解析、評価手法構築
- ・水産生物の生息状況、行動特性と生息環境条件を評価する手法の開発

➤ 達成目標③：沿岸構造物における保護育成機能強化のための漁港・港湾等整備技術の開発

- ・評価技術をもとにした沿岸構造物の保護育成機能強化のための漁港・港湾等整備手法の開発
⇒生息、産卵環境等を向上させる構造物の付加
(現地実証試験)



港を利用する水産生物の生活史(現地観察結果H27.3~H27.8)

港の利用形態	I型 生息場 (全生涯)	II型 産卵・孵化場	III型 索餌・生息場	IV型 避難場 (時化・越冬)	V型 通過経路 (回遊)
上層(0から-2m)			エゾメバル	イカナゴ	カタクチイワシ ボラ、ウグイ
下層(-5m前後)	ハゼ、アサリ ホタテ、ウニ	ニシン ハタハタ	カレイ、カジカ、 アイナメ、ミズ	スケトウダラ	

赤字: 本研究における対象種



＜対象魚種の選定＞
・スケトウダラ、ホッケ、ニシン等北方系の水産資源の減少が見られ、これらを回復するための手法を検討する。
・アサリの生息域(砂浜域)が本来少ない北海道日本海側における資源増大技術を検討(日本海漁業振興対策)

